

# 【会議録】

会 議 名	第3回港区フィルムコミッション運營業務委託事業候補者選考委員会
開 催 日 時	令和6年6月26日（水）午後1時30分から午後3時まで
開 催 場 所	札の辻スクエア8階 活動室
委 員	出席者 5名 上村委員長、木内副委員長、片山委員、岡野委員、小笹委員 欠席者 0名
事 務 局	産業・地域振興支援部 観光政策担当課長 産業振興課シティプロモーション担当
会 議 次 第	1 開会 2 第二次審査実施概要について 3 事業者によるプレゼンテーション及びヒアリングの実施 （1）B事業者（30分） 4 第二次審査結果及び事業候補者の選定について 5 その他 6 閉会
配 付 資 料	【席上配布資料】 資料1 第二次審査実施概要 資料2 第二次審査採点基準表（1事業者分） 資料3 第一次審査・第二次審査集計結果（※採点終了後、机上配布） 参考資料1 第一次審査集計結果 参考資料2 事業候補者選考基準 参考資料3 仕様書（案）
会議の結果及び主要な発言	
（発言者） 委員長	【1 開会】 （開会の挨拶） （事務局より配布資料の確認）
	【2 第二次審査実施概要について】 （事務局より資料1、資料2及び資料3について説明）
事務局	【3 事業者によるプレゼンテーション及びヒアリングの実施】 （1）B事業者（15分） 質問をお願いします。
A委員	既存のものでない、新しいロケ地の提案について、具体的にどのように実施していくのでしょうか。

B事業者	<p>既存のロケ地としては、東京ロケーションボックス内にロケ地検索機能があり、都内の各自治体の受付窓口やフィルムコミッションと連動しています。すでに港区内に民間のオフィスビルや観光スポット等も含め、「条件が合えば使用可」として登録されているスポットが400以上あります。港区に限らず、公園はロケのハードルが高い状況ですが、その中でもしっかりと手順を踏んで、周辺住民等の同意を得ることで撮影許可が得られる場所もあるため、そういった場所の発掘を想定しています。ただし何でも撮影可というわけではなく、港区にとって有益なものに関しては可能となる場合もあるため、その辺りの精査をして丁寧に進めていきます。映像制作者向けの新たな発掘と将来の誘客に向けた発信では全く内容も変わってくるため、その辺りにも留意したいと思います。</p>
A委員	<p>新しいロケ地に関しても、東京ロケーションボックスのロケ地検索機能の中に情報として入れていくということでしょうか。</p>
B事業者	<p>はい。東京ロケーションボックスへの登録のみでなく、区のフィルムコミッションとしても発信していきます。</p>
B委員	<p>海外を含む映像制作者、テレビ局等の誘致経験に関するお話がありましたが、誘致をする際に端緒となる部分について、これまでの経験を踏まえてどのように考えていますか。</p>
B事業者	<p>新潟県のフィルムコミッションに発足2年目で携わった際には、人脈も頼りながら、全ての放送局に営業に出向きました。港区の場合は、区内・都内に放送局もあり、ターゲットとなる映像制作者も多くいる状況です。海外のロケ誘致については、経済産業省が海外からのロケ撮影に対するインセンティブを大幅に上げています。直接海外とやり取りをするより、共同制作として日本の制作会社が入ることで、日本の制作会社を通じてやり取りが出来ると、フィルムコミッションとしても非常にコミュニケーションが取りやすくなると感じています。過去には海外にも誘致に行き、英語でやり取りする場面もありましたが、なかなか結果に結びつかないと感じました。海外の場合は特に相手が慎重であるため、3年くらい時間をかけるイメージでコミュニケーションを取り続けていかないといけません。海外誘致のポイントとしては、非常にビジネス的であるため、過去「Tokyo Vice」という作品について、夜に赤坂見附裏の道路を封鎖して2日間撮影した際には、非常に大きな直接経済効果がありました。同様の経済効果がないと、同規模の撮影は難しいような状況です。こういった状況を踏まえ、情報発信以外にも対面の場やメール等を通じて、実際に映像制作者とのコミュニケーションを積み上げていくことがロケ誘致には大事だと思います。</p>
C委員	<p>業務執行体制について確認となります。今ご説明をいただいた方の他に、経験のある方が2名、業務に携わるという認識です。その他、バックアップ体制として、業務担当者が不在の場合には常任配置をするという方を1名予定されているという理解ですが、今ご説明をいただいた方も、他の2名についても、受注した</p>

	場合には確実に就任いただけるという理解でよいでしょうか。
B事業者	他2名については、具体的な交渉自体は受注したことが明らかになってからとなりますが、うち1名については、今の時点ではこちらからのオファーに対して、一定のポジティブな回答をいただいています。他1名については、人員の見直しの検討があり、よりフィルムコミッションのキャリアのある人員の方が初年度からのスムーズな運営に繋がるのではないかという意見があり、当初とは別の方で、より経験値の高い別の人員確保を予定しています。予備人員としては私を予定しており、病気等やむを得ない事情があった場合は、私が入るというイメージです。
C委員	新たに検討されている方を含む2名の従事予定者は、現在どこか他のフィルムコミッション業務に携わっている方ということでしょうか。
B事業者	はい。
C委員	受注が決定をされた場合には、その2名の方にも間違いなく当該業務に従事をいただけるものだと理解をしてよろしいでしょうか。
B事業者	最終的には受注確定後の交渉になりますが、今のところの打診においては、両者からポジティブなご意見をいただいております。
C委員	最終的には受注決定後の確定になるとしても、基本的にご本人からは、新たに当該業務に関わるという意思表示がなされており、受注が確定すれば、執行体制の一人として動き出すと理解してよろしいでしょうか。
B事業者	はい。ご理解のとおりです。 現役のフィルムコミッショナーや、数年前までフィルムコミッショナーとして活躍されていた方も含めて当たっており、ポジティブな回答はいただいています が、まだ受注決定していないため、最終確定は今後となります。
C委員	当初はご説明いただいた方以外に2名の計3名体制でしたが、そのうち1名の代わりに新たに2名にお声掛けしているということは、体制としては1名加わって4名になるのでしょうか。
B事業者	いえ、体制としては3名のままとなります。
C委員	新たに2名の方に声掛けはしているものの、実際は1名のみ体制に組み込まれるという理解でよろしいでしょうか。
B事業者	ご理解のとおりです。

C委員	見積書の資料の中には、人件費として27か月相当を見込んでいるようですが、具体的にはいつ頃からその体制で動き出す予定でしょうか。
B事業者	受注が決まりましたら即日動き始めます。
C委員	港区には観光資源がたくさんあり、その強みを出して地域振興にどう繋げていくかがとても重要になってくると思います。今回の業務をどのように地域振興に繋げていくかお考えを聞かせてください。
B事業者	環境づくりと情報の積み上げが大事だと思っています。広報発信等も通して、海外の方が求める「THE 東京」である港区をもっと表に出していきたいと思えます。海外の誘致においては、東京タワーがとても人気であり、港区は海外が求める「THE 東京」というイメージの場所です。海外だけでなく、日本の作品においても同じです。ただ地域振興につなげていくのは1年では難しいため、まずは情報や実績を積み上げていくことに注力し、皆さんと協議しながら進めていきたいと思っています。
D委員	新しいロケ地提案に関する質問の中で、ハードルの高い公園での撮影についても、住民の同意を得て進めていくというお話がありました。集合住宅等も多い港区において、住民の合意形成を行うことも難しい部分があると思いますが、具体的にどういった手法で住民の同意を得ていくのか、お考えを聞かせてください。
B事業者	台東区の事例の場合、撮影の規模に関わらず、住民の理解というのを最優先に考え、町会単位や商店街単位で会長のもとに直接足を運び、説明をさせていただいています。まちにとって受け入れていただける撮影内容なのかを、最初に確認しなければいけません。まちの方が「やめてほしい」という内容については、無理はしないという姿勢でいるため、少しでも聞き入れていただけるよう、撮影支援の際に地域へのご説明を行っています。台東区では撮影禁止区域もたくさんあります。撮影してほしくないという町会長等がいらっしゃる場合は、そこでの撮影は実施しないというご案内をしています。
D委員	差支えのない範囲で、今までで一番苦労されたことについてお聞かせください。
B事業者	理不尽な内容も含め、撮影現場での様々な苦情者対応を直接行ってきました。撮影支援している責任があるため、現場で必ず立ち会って、その場で解決できるケースもありますが、後日に持ち越して解決していくというケースもありました。
E委員	執行体制について改めて確認です。3名の執行体制のうち、1名は決定している、1名は交渉中で前向きな回答をいただいている、当初予定していたもう1名の代わりに別の2名が候補者となっており、うち1名を採用する予定で、もし採用できなかった場合には、予備の人員を充てて3名体制とする想定でよろしいでしょうか。

B事業者	はい。
E委員	拠点となる場所としてはどちらか想定していますでしょうか。本社は区外にあると思いますが、別途区内に拠点を持たれたりする予定でしょうか。区内から事務所が離れている場合も事業としては可能でしょうか。
B事業者	予算の都合もあるため悩ましいところであり、今のところ産業振興センターの coworkingスペースで作業することも1つの案として検討しています。フィルムコミッションは電話対応が多いですが、問い合わせたところ、一般の coworkingスペースとは異なり、こちらでは大声で話さなければ電話も可能とのことで、機密性の高い内容についてはボックスを使用できるとのことでした。具体的には受注が確定したら、係の方ともご相談しながら決めたいと思っています。
E委員	coworkingスペースについては満員の場合もあり、使える時と使えない時があると思いますが、その辺りはいかがでしょうか。
B事業者	問い合わせた限りでは、登録すればいつでも使えると伺っており、席が埋まってしまう可能性もありますが、現状席が埋まって全く使えないようなことはないかと伺っています。
E委員	都度、使用料を払いながら coworkingスペースを使うような想定でしょうか。
B事業者	年間契約を想定しています。
E委員	coworkingスペース以外の拠点についても、想定していますでしょうか。
B事業者	他にはパートナー企業が港区内にオフィスがあるため、 coworkingスペースが難しい場合はそちらを使わせていただく事も検討しています。パートナー企業においては、コロナ禍以降テレワークを起用しており、現状スペース等もあるため、使用する事も現実にも問題ないと考えています。
E委員	港区に近い場所でしょうか。
B事業者	港区新橋です。
	【4 第二次審査結果及び事業候補者の選定について】 (事務局より資料3について説明)
委員長	事務局から採点結果の説明がありました。それでは審査に当たり、評価したポイントなど、各委員から順番に講評をお願いしたいと思います。

A委員	<p>業務趣旨の理解について、他の委員より厳しい評価となっていますが、普通に理解はしているという印象だったので、普通の評価をさせていただきました。理解していないという意味ではないため、委員間の点数の開きがあるようであれば、1つ評価を上げてよいと考えています。情報の一括管理をして、情報発信に取り組んでいく部分については、実現性や発展性はよかったですと思います。シビックプライドを醸成するための取組についてもしっかりと検討されていると感じました。専門性を持つ人材の予定者については、若干懐疑的な部分もありましたが、概ね問題ないと思っています。</p>
B委員	<p>ロケの誘致に当たって、ホームページ等での発信のみの待ちの姿勢ではなく、制作会社に直接営業に行く等、積極的な姿勢が確認できました。ロケの誘致を実現するという覚悟が必要となることから、実現性についてはかなり期待を持てると感じました。また経験や人脈があることが最も大切な要素となる業務であるため、採択された場合にも、経験値のある人材が急に辞めてしまうと影響が大きく、人材が確保され続けるかという部分は事業開始後も注視をしていく必要があると思っています。</p> <p>提案の発展性という部分では、各委員の捉え方にもよりますが、ロケの効果を地域振興や経済発展まで結びつけるという点で評価をしており、なかなかロケが来ただけで簡単に経済発展とまでならないことから、厳しめの評価としています。事業者からも今後取り組んでいく中での中期の課題という一般的な回答しかされませんでした。ロケが来たことでなんとなくシビックプライドが高まったり、盛り上がったりしている様子をもって発展性と捉えるならば、1つ評価を上げてよいと思っています。</p>
C委員	<p>プレゼンテーション時に、当初想定していた人員体制と変更となったことについては少し不安を覚えました。様々な人脈やこれまでのつながりの中で、経験値の高い人材が何人もいるという意味においては、万が一、特定の方が業務に継続的に関与できなくなった場合も、同等の経験値を持つ方に声掛けが出来るのかなとも捉えられました。また、港区観光振興プランの実現に貢献していくという部分での「港区フィルムコミッションのあり方」についても詳細のご説明をいただきたいところでしたが、限られた時間の中であるため、業務理解については高い評価とし、執行体制は少し不安を覚えました。全体的には十分当該業務を執行できると考えています。</p>
D委員	<p>他の委員の皆さんと比較して1段階評価が低くなっているかと思います。1次審査のように比較できると差をつけられましたが、B事業者を単体で見ると、意欲の見せ方が弱かったという印象で、平均して普通という評価にしています。人員体制についても少し不安を感じ、同等の経験値の人材を当て込める人脈もあるとは思いますが、継続性という部分を考えた時に、あまりにも人が変わっていくのもどうなのかと感じたため、普通の評価とさせていただきました。</p>
委員長	<p>プレゼンテーションとしては実績の話が多く、もう少し本業務の中身についての</p>

話や想いを聞きたかった部分もありますが、内容的には業務自体への理解も深いと感じました。これまでの実績もあり、難しい課題等も含めて、ある程度理解をされているという印象です。体制については、継続性という意味では不安な面もあり、事務所についてもコワーキングスペース等を間借りしながらどこまで出来るのかという不安も残ってはいますが、組織的にある程度のノウハウも持っていると思います。パートナー企業のオフィスについても、現状テレワークが多くスペースが空いているため借りられるとのことで、いつまで同じ状況が続くかは不明瞭ですが、そこはしっかりと確保をしていただくしかないので、全体としては高い点数としています。各委員さんのご意見からも、概ねB事業者に任せて問題ないのご判断いただいていると感じています。

委員長

各委員からの講評及び委員間の点数のばらつきを踏まえ、点数の確認と審査に当たっての最終的な意見交換をしていただければと思います。最もばらつきが大きかったのは、「業務趣旨の理解」の部分となります。A委員から講評中に、1つ評価を上げてもいいとのお話がありましたが、いかがでしょうか。

A委員

プラスの評価という意味ではあるため、1段階上げたいと思います。

委員長

B委員からは、「提案の発展性」の捉え方の部分のお話もありましたが、こちらは点数の修正はありますか。

B委員

点数の修正はなしでお願いします。

委員長

その他、点数の修正やご意見等ありますでしょうか。

(委員一同、異議なし)

それでは事務局の方で再集計をお願いします。

(事務局より再集計後の資料3について説明)

委員長

審査結果や各委員様からのご意見から総括し、当委員会としては、B事業者を事業候補者として選定することとしますが、よろしいでしょうか。

(委員一同、異議なし)

ご異議ございませんので、B事業者を事業候補者として選定します。

それでは、事務局から事業者名を発表してください。

(事務局から事業者名の発表)

【5 その他】

(事務局より事務連絡)

【6 閉会】

(委員長より閉会の挨拶)